

# 適性検査Ⅰ

## 注 意

- 1 問題は **1** のみで、4 ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は四十五分で、終わりは午前九時四十五分です。
- 3 声を出して読むではいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、解答用紙だけを提出しなさい。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 受検番号を解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

東京都立立川国際中等教育学校

問題は次のページからです。

## 1

次の文章を読み、あとの問題に答えなさい。

(\*印のついている言葉には本文のあとに〔注〕があります。)

やさしさが巷まちまたに溢あふれている。やさしくない人は敬遠けいえんされる。だからだれもがやさしい自分でありたいと思う。

でも、改めて考えてみると、何がやさしさなのかよくわからない。突き詰めれば突き詰めるほどわからなくなる。そんな迷いを抱かかえる人たちの参考になればと思い、やさしさについていろんな側面から考えてみることにした。

やさしい人が求められる時代のようなのだ。

男性は理想の女性として「やさしい人」をあげ、女性も理想の男性として「やさしい人」をあげる。

やさしい女性が人気なのは昔からだ。男性にも「たくましさ」より「やさしさ」が求められるようになり、男女ともやさしさが人気の条件になっている。

恋人や結婚相手ばかりではない。肌はだにやさしい、環境かんきょうにやさしいなど、人間関係以外でもやさしいことが絶対的によいことであるかのようないメージがあり、やさしさが大きな価値かちをもつ時代と言ってよいだろう。

では、どんな人がやさしいのだろうか。今の時代は、人の気持ちを傷きずつけない人がやさしいと言われるようだ。

傷つけられるのはだれだって嫌いやなはずだ。こっちが傷つくようなきつ

いことを平気で言う人にはつい身構えてしまっし、そのような人は敬遠けいえんしなくなる。

人の気持ちを傷つけないように配慮はいりよしてくれる人だと、こちらも安心してかかわれる。

でも、そのような配慮の行き届とどいた人のかかわりに、どこか物足りなさを感じることもあるのも事実だ。

傷つくようなことを言ってこないという安心感はあるのだが、なんだか距離きょりを感じさせるのだ。気持ちが触れ合ふっている感じがしない。

傷つけないように気を遣つかうばかりの関係ってなんか淋さびしい。そう思わないだろうか。

もしかしたら、「嫌きらわれたくない」っていう、ただそれだけの思いから、やさしげな態度をとっているのかもしれない。それって、自分のことだけを考えて、無難\*ぶなんにかかわろうとしているだけで、ほんとうに親しくかわる気持ちなんかないということではないのか。そう思うと、なんか心の距離を感じてしまっ。

これまでこっちの気持ちを傷つけるようなことを言わない人のことをやさしいと思っていたけど、疑問\*ぎもんが湧わいてきたという人もいる。よく考えてみると、気を遣\*つかって、ホンネを出さないようにしているのかもしれないし、そっだとする、親しくつき合あうようになり、ホンネを出し合あえるようになったとき、ほんとうにやさしい人かどうかかわからない。

もつと単純たんじゆんな状況じようきやうを想定しても、「今、ここで」傷つけないように

配慮するのがやさしきなのかどうか、簡単に判断しにくいということがある。

たとえば、服を裏表間違えて着ている人や前と後ろを間違えて着ている人を見かけたとき、指摘してあげるかどうか戸惑うことがある。

その場で傷つけないように見て見ぬフリをするやさしさもあるが、この先さらに恥をさらすのを防いであげるためにあえて教えてあげるやさしさもある。

やさしい人がいいとだれもが言うわけだが、このように「人の気持ちを傷つけない人はやさしいのか」という点について考えるだけでも、具体的にどんな人がやさしいのか、どうもよくわからなくなってくる。

ほめてくれればだれだって嬉しい。ほめてくれる人は、こちらを気分よくさせてくれる。

でも、いつもほめてくれる人はやさしいのだろうか。どうしていつもほめるばかりなのだろうか。

人をいい気分にさせてあげたいという思いが、人一倍強いのだろうか。

あるいは、ほめれば何か良いことがある、たとえば、ほめていけば好意が得られる、少なくとも嫌われることはないと思ったりしていいのだろうか。

いつもほめてくれる友だちといると気分がいいし、そのような友だちをいい人だと思ふものだが、もし向こうが「ほめていけば相手から好かれるものだ」といった意識のもとにほめているとしたら、その人のことをやさ

しいと言っているのだろうか。

一方で、こっちの至らない点などを教えてくれる友だちは、痛いところを指摘してくるため、「嫌なことを言うなあ」とその瞬間はネガティブな気分になるが、「たしかにそこは自分のダメなところだな」と感じることもあり、そのお陰で欠点を意識して修正することができる。

このような友だちは、言にくいことを言うことで嫌われるかもしれないのに、あえて言ってくれているとしたら、むしろやさしいと言えるのではないだろうか。

お年寄りに席を譲るのは人として当然のやさしさのはずだ。だが、傷つけないのがやさしさということになると、そのやさしさの発動にブレーキが掛かることがある。

それは、席を譲るべきお年寄りかどうか微妙なときだ。親切のつもりで席を譲ろうとしたところ、相手はただ老け顔なだけで、まだ席を譲られるような年齢ではなかった。そんなことになったら、相手は気分を害するだろう。

明らかに老人であっても、席を譲られるほど自分は弱っていないといった\* 自負をもっている場合、席を譲られることで、自分はやはり弱々しく見えるのだろうかと気にしてしまふかもしれない。

どうみても席を譲るべきだと思えるお年寄りの場合はよいのだが、そうでないときは、席を譲ろうという思いと同時に、相手を傷つけるのでは、

といった懸念<sup>\*けんねん</sup>も生じる。

こちらが席を譲ることで、助かるお年寄りが多いはずだ。ゆえに、余計なことを考えずに、お年寄りがいれば席を譲ればいい。それがやさしさのほずだ。

相手が固辞<sup>\*</sup>した場合は、引き下がればいい。そのとき相手が傷ついたかどうかなど気にすることはない。万一、

「自分が老人に見えたのか、そんな年でもないんだけどな」

と、相手が内心傷ついたとしても、こっちが親切心から席を譲ろうとしたのはわかるはずだし、意地悪で年寄り扱いしたなどと邪推<sup>\*じやくさい</sup>されるようなことはあり得ない。

だが、絶対に傷つけてはならない、それがやさしさだ、というような風潮<sup>\*ふうちう</sup>が広まることで、本来のやさしさを発揮<sup>はつき</sup>しにくくなってしまつのである。

相手が傷つかないように配慮するのももちろんやさしさではあるが、それにとらわれるあまり、本来のやさしさにブレーキが掛かる。二つのやさしさの間で身動きが取れなくなるのである。

相手のためを思う気持ち<sup>\*</sup>が基本にあり、安易<sup>\*あんい</sup>に見返りを求めないのがほんとうのやさしさと言える。

好かれたいからほめるといふのも、嫌われたくないから厳しい<sup>きび</sup>ことは言わないといふのも、見返りを求める態度であつて、やさしさとは言えない。

そもそも人の内面など、なかなかわかるものではない。相手の気持ちなどお互い<sup>たが</sup>になかなか読めないし、この先どんな反応をするかなど予想できない。予想外の反応に驚か<sup>おどろ</sup>されることもある。

ゆえに、相手がこちらの真意を理解せずに、攻撃<sup>こうげき</sup>的な反応を示すかもしれない。こっちが相手のためを思って、気まずくなるのは覚悟<sup>かくご</sup>の上で、言いにくいことを言つてやったつもりなのに、まるで意地悪をされたかのように敵意<sup>\*てきい</sup>を剥き出しにした反応をぶつけられることがある。

それを嫌つて、言いにくいことは言わないといふのは、ほんとうのやさしさではない。自分のためといった視点<sup>してん</sup>が、相手のためといった視点<sup>まき</sup>に勝つているからだ。

こちらの思いが通じず、相手が傷つき、こちらを恨む<sup>うら</sup>ようなことになるかもしれない。相手のためだと思つたら、あえて厳しいことも言つし、厳しい課題を課<sup>か</sup>することもする。その結果、自分が嫌われても仕方ない。それが最終的には相手のためなのだ。そのような姿勢<sup>しせい</sup>を取れる人は、ほんとうのやさしさをもつ人と言える。

(榎本博明「『やさしさ』過剰<sup>かじようしやくかい</sup>社会 人を傷つけてはいけないのか」による)

〔注〕

- 巷ちまた——世の中。
- 敬遠けいえん——それとなく遠ざけること。
- 無難ぶなん——安全であふないところがないうように。
- ホンネ——「本音」のこと。本当の気持ち。
- 至いたらない——不十分な。
- ネガティブな——いやな。
- 発動——動きだすこと。
- 自負——自分の能力などへの自信。
- 懸念けねん——心配。
- 固辞——強く断ること。
- 邪推じやしうい——ものごとを悪いように考えること。
- 風潮ふうちう——世の中の傾向けいこう。
- 安易あんいに——気軽に。かんたんに。
- 剥むき出し——かくさないこと。

〔問題1〕

「傷つけないように気を遣つかうばかりの関係けんけいってなんか淋さびしい」  
 のはなぜですか。筆者の考えを四十字以上五十字以内で書き  
 なさい。

〔問題2〕

「席を譲るべきお年寄りかどうかが微妙びみょうなとき」でも、筆  
 者は席を譲るべきだと述べていますが、それはなぜですか。  
 六十字以上七十字以内で書きなさい。

〔問題3〕

「本来のやさしさ」とは、どのようにすることだと筆者は述  
 べていますか。また、その考えについてあなたはどのように思いま  
 か。あなたが今までに実際に受けたやさしさの経験を交え、あ  
 なたの考えを、四百六十字以上五百字以内で書きなさい。

なお、次の《注意》にしたがって書きなさい。

《注意》

段落だんらくをかえたときの残りのます目は字数として数えます。

ただし、問題1・問題2は、一ます目から書き、段落をかえてはいけま  
 せん。

、や。や」なども、それぞれ字数に数えます。